

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0790300255 | | |
| 法人名 | 郡山医療生活協同組合 | | |
| 事業所名 | グループホームひなたぼっこ | | |
| 所在地 | 福島県郡山市島2丁目23番17号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年2月13日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉ネットワーク |
| 所在地 | 〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地 |
| 訪問調査日 | 平成28年3月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が自分らしい生き方が出来る様、1人ひとりに寄り添う介護を支援している。 ・住み慣れた地域の人や場所の中で、今まで通り暮らせるために、地域づくりをすすめている。 ・誰もが生きがいを持って、楽しく過ごせるよう支援している。 ・健やかに、安心して暮らせるよう、協力病院との連携を図り、必要に応じて通院の支援を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な方々との交流をすすめ、ひなたぼっこ職員の成長を目指している。 ・利用者本人・家族の要望にその都度応えている利用者も職員も仲良く、楽しく生活している。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>職員が利用者の思いを細かくみ取り、自分の家にいるような雰囲気の中で穏やかに暮らせる生活を支援している。 病院が母体の事業所ということで、利用者の体調に変化がある時は速やかに支援ができる協力体制があり、利用者、家族の信頼を得て日々のサービスが実践されている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念について職員で話し合い、見直しを行い全員で共有し実施している。 | 利用者が安心して暮らせる家という理念のもと、業務の申し送りの時や利用者の昼寝の時などに、日々の話し合いをして実践の確認をしている。参加できなかった職員は記録を見て確認するようにしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・日常的に交流を深めている。(回覧板、運動会、廃品回収、文化祭等の地域行事の参加しました。) ・芋煮会やバザーの呼びかけを行い地域との交流を深めました。 | 広い屋上で地域の人と利用者、家族と花火見学や芋煮会などの交流をしている。1階のデイサービスに芸能ボランティア等来た時には一緒に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・地域の方より相談を常時受けている。又見学にいらした方に施設の特徴等説明している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・推進会議では、利用者様にも参加して頂き、事業所の現状を報告し、地域の方地域包括支援センターの方、家族の方の参加もあり意見を頂きサービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議で話し合いがされた感染症には、事業所の現状を報告して、保健所や、母体となる病院の感染予防委員会から対策などの指導を受けている。対策には、速やかに対応できるように話し合いをして、内容を運営推進会議に報告し、さらに、意見をもらうようにしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ・何かあった時は直ぐに市町村や保健所に相談し、アドバイスを受けています。常にコミュニケーションを取っています。又市の相談員さんが毎月2回訪問し、「きずきノート」を活用しコミュニケーションを図っている。 | 市の相談員さんが定期的に訪問して、アドバイス等受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・日頃より身体拘束について職場会議や学習会などで学習し、職員間の知識を高め拘束・抑制がない様意識づけをしている。 | 新人には身体拘束をしないケアの指導をし、職員は研修を受けて、実践している。研修を受けた職員は会議や学習会で報告して、全職員が理解を得られるように努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・身体拘束同様、職場会議、学習会などで学び、日頃より職員間で正しい知識のもとで虐待の防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・学習会を開催し、権利擁護について学習する機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約・改定等の際には、十分な説明を行い、利用者様ご家族様合意のもと利用して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・日頃より利用者様や家族様の意見などを聞き、運営につなげている。 ・第三者委員会を年に2回開催し、意見交換をしている。又意見箱を設けている。 | 家族とは、面会の時に話し合いの場や時間をつくっている。話しにくい事などは、意見箱に入れてもらい改善をはかっている。職員の名前がわからないという意見があり、顔写真を用意する予定がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・職場会議や日常業務の中(朝の打合せその他ミーティング)で意見を聞き反映させている。又個別面談などで意見を聞く機会を設けている。 | 利用者が勝手に取り出してしまう、パットの置き場所に関する職員の意見など、管理者は良く話しを聞いている。家族、職員が入れやすい意見箱も設置され、言いやすい環境で、行事の話し合いの内容も、ミーティングなどで報告があり、職員意見が反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・職員の勤務実績、状況を把握し処遇改善を行っている。・随時職員と面談の機会を作り、意欲的に仕事ができる様努めている。労働組合と共に労働条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・外部研修には各自、年1回は参加できる体制を取っている。プリセプター制の導入や職能要件書を使い教育に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・法人の介護事業部内での事例検討会に参加し、発表を行っている。外部研修等で他事業所職員と情報交換を図り、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・本人の要望や意見を聞き、又話しやすい環境づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・家族様の要望や意見を良く聞き、安心して利用して頂けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族様とその都度話し合いをする機会を設け、その本人と家族にあったサービスが提供できるよう努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・作業する時など、一緒に行える事等はともに行い信頼関係づくりに努め、介護する、介護されるという立場を意識しないで過ごせるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的に、ご家族様が面会に来てくださって居室などでゆっくりとお話などをして、不安なことや日常的なことを話をする中で信頼関係を作り、本人と家族のきずなを大切に深めていける様努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・友人が訪ねてきたり今までの関係が途切れないよう、支援に努めている。また近所への買い物や外出、外泊などの支援も行っている。 | 遠くてなかなか面会に来れない家族には、希望があれば外泊や食事を支援している。季節によっては、職員やボランティアと外食に行ったり外出支援をしている。近くの美容院からは散髪に出張してもらい、今までの関係が途切れないように、関係継続に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・利用者様同士の関係を把握し仲の良い関係、支え合えるような関係作りの支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・退所したご家族様との交流は継続して。施設に 来所されたり、電話を下さる際には現状を伺っ たり、相談などを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・利用者様との会話の中や日頃の生活から。本人の 行いたいことや本人の望む生活を伺い、本人の 希望などの把握に努め職員間で共有し、家族。関 係者の協力を得て想いをくみ取る等、本人本位に 取り組んでいる。 | 職員が常日頃、利用者の顔色や表情の変化に気づき 声をかけたり、さりげなく話しをして利用者の思いに寄 り添いながら、意向をくみ取るようにしている。利用者 の状況の変化など、介護計画を日々見ることで、職員 に気づいてもらうことに努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている | ・入所時やご家族様来所時など、今までの生活史 やなじみの暮らしなどを伺い把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている | ・定期的にモニタリングやミーティング申し送り時な どディスカッションを密に行い一人ひとりの過ごし方 や有する力の評価、把握を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している | ・本人の意向・ご家族様の希望を確認しプラン ニングを行っている。定期的に見直し、状況変化時はそ の都度介護計画を見直している。 | 利用者、家族の思いをよく聞いて、反映させるようにし ている。担当者が、利用者の状況の変化の違いに気 づき、家族とも話し合いをして、介護計画の改善や見 直しを実践している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている | ・ケアプランを意識し記録を行っている。細かな気 づきや計画の見直しに利用できるよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支 援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・本人の希望やご家族様の希望、意向があった場 合にはそのニーズに対応できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今までの友人との交流を大切にし、来所時にはゆっくりと過ごして頂いている。又地域の行事への参加を通じ交流を深めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前のかかりつけ医に受診・往診を行って頂ける様支援している。又受診できない場合は家族と連携を取り受診支援を行っている。 | 主治医は、母体の病院から往診に来てもらっている。家族と受診の時は、利用者の状況や情報を共有している。医師の指示や投薬などの内容を確認しながら、連絡を取りあうように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回訪問看護師に利用者の状態を報告。相談し処置や受診の指示を受けている。又24時間訪問看護師との医療連携がとれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際には病院関係者に施設での情報を提供したり、退院に際しての受け入れについても、意見交換し、利用者が安心して入院療養や退院後の当施設での生活が出来る様、医療機関との連携を図っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に看取り・重度化に関する指針を家族などに説明し、事前の意思確認を行って同意書を頂いている。又看取りを希望される時は、「終末ケアについての同意書及び確認書」を頂いている。 | 入居の時に家族を交えて終末期の対応に関する書類を取り交わしている。変化があるときには、随時話し合いをして状況を確認しながら、介護計画を作成し直すようにしている。主治医とは常に連絡を取りあい、往診で対応してもらっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 学習会などで緊急時の対応(AED、心臓マッサージ、人工呼吸など)を学び、今後も訓練を定期的に行っていく。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の施設全体の訓練の他に、緊急連絡網や夜間想定訓練などを実施し、各職員の防災意識を高めている。地域住民に回覧版等でお知らせし、協力要請をしている。 | 年2回、郡山市の広域消防署と協力して訓練をしている。屋上に螺旋状のスロープが設置されていて、車イスの人や足の弱い人は職員と一緒に避難できる体制ができて訓練している。ライト付きヘルメットなど準備があり、避難場所も確認している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の人格を尊重した言葉使いやプライバシーを損ねないように対応している。入浴時や排泄時等、常に羞恥心を考え配慮している。 | 身体的後遺症のある利用者の羞恥心を考慮して、入浴の時やトイレの時などに、恥ずかしい思いをしないよう配慮した声掛けになる支援をしている。職員の日々のコミュニケーションの取り組みが良く、利用者との信頼関係ができ、異性の介助も利用者に受け入れられている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その時、その時の利用者本人の気持ちを大切に支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1人ひとりの生活のリズムを把握し、その人の思いや希望に沿った生活を過ごせるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的な理美容などを行い身だしなみやおしゃれが出来る支援を行っている。更衣時は本人と一緒に衣類を選んで頂いている。時々他事業所の利用者様と一緒にネイル教室を楽しんでいます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日や行事食、外食レクなどは利用者様の好みを伺い、それに沿ったものになっている。また、利用者様と共に野菜の下処理や盛り付けを行い調理に参加して頂いている。 | 家族、利用者、職員などに食事メニューのアンケートをした評価で、3月から業者を変えた。利用者ができる所は手伝ってもらい、利用者と職員が準備の時(テーブル拭き等)食事を楽しめるよう支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その人に合った食事量、食事形態を考慮して、食事の提供を行い、バランスが偏らないようにしている。1日の水分をチェックし、必要量が摂取出来る様援助している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔の保持に努めている。又個別に訪問歯科と連携しながら、義歯の調整、口腔内の指導を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人1人の排泄パターンを分析し、出来るだけトイレで排泄して頂ける様な介助を行っている。 | カーデックスを利用しトイレでの排泄を支援している。便秘気味の利用者は、お腹の張りを聴診器で見たり、食事や乳製品などの飲み物で体調を整えたり、薬の量を変えたりして排泄の対応をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 定期的に体操を行ったり、便秘気味の方には水分、乳製品を飲用して頂く事で予防に取り組んでいる。また、医師や訪問看護師との連携を密に行い、早期に対応できるよう取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 1人ひとりに合った湯量、温度、時間帯を考慮し入浴介助を行っている。その日の予定になくても入浴したいとの希望があれば出来るだけ入浴して頂ける様に対応している。 | 車イスの人は職員2人介助で対応して、利用者全員入浴を楽しんでもらっている。沐浴剤を変えたりして、気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、散歩にいきましょうとさりげなく声掛けをしたりして、安心して入ってもらうようにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1人1人の生活のリズムや体調を考慮し、休息を促している。又安眠できる環境を整えている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の作用や副作用学習会を行い理解を深めた。個人ファイルにお薬カードを保管し何時でも確認できるようにしている。看護師と連携し服薬支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1人ひとりの能力や意欲などを考慮し、創作活動やレクリエーションを取り入れている。又、洗濯物干しや洗濯たたみ、掃除等生活の中での役割を持つよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 1人ひとりの希望に沿って、外に出掛けたり、散歩をしたりする機会を設けている。また、ご家族様に協力して頂き、外出・外泊が出来支援をしている。 | 地区の文化祭に利用者の作品が飾られて、職員と見学に出かけている。花見には、職員と近くの公園までおやつを持参し外出している。洗濯物を干す時、職員と一緒に屋上に行き、景色を楽しむなどの支援している。帰宅願望の人には職員と一緒に家まで行くなどの外出支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理の出来る利用者様はいないが、なるべく残存機能を活かしながら、買い物援助など出来る支援を行っていきたい。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば、ご家族様へ電話や手紙のやり取りが出来る様支援しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者様が居心地のいい環境づくりを行い(電気等の灯りや、温度の調節など)安心して過ごせるようにしている。又装飾品等は季節感を意識し対応している。 | 利用者が作った吊るし雑や編み物などが飾られ、居心地の良い空間になっている。室温や湿度に気を付けて利用者の体調管理の支援をしている。季節によって変わる光の入り方に考慮して、家具などの配置を変えたりして、ゆったり過ごしてもらえよう対応している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲のよい利用者様同士でゆっくりと過ごしたり、時には1人で過ごす空間を用意するなどして、座る位置などを工夫し対応している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 | 利用者様のなじみの物を部屋に持参して頂いたり、本人が好むレイアウトを本人、ご家族様と共に工夫し、環境の整備に努めている。 | 部屋ごとに壁紙を変えて、利用者が自分の部屋であるという意識を持って生活してもらうことを支援している。利用者の生活習慣などから、ペットや家具を移動したり写真や置物で飾りつけたりして居心地の良い空間になるように支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや浴室の目印をつけ、出来るだけ混乱が無い様に対応している。また、居室に関しても利用者様が理解できない場合には、その人にあつめじるし等の表示の工夫をしている。 | | |